

リウマチニュース リウマチニュース

平成20年1月号

今回のリウマチニュースは、今年7月に皆さまよりご協力いただきましたアンケートで多く寄せられたご意見に対し、Q&A方式でお答えする第2弾です。

【医師に望むこと】

Q1. 頻繁な医師の交代は、どうにかならないでしょうか。今のままで担当をかえないで欲しい。

A. 当院は、リウマチの専門病院として、患者さまの治療はもちろんのことですが、リウマチ医療の発展のため、医師の研修機関として位置付けられています。そのため、定期的に医師の交代がありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



Q2. 投薬以外で生活していく中で痛みを和らげる方法などのアドバイスをもらえたら嬉しい。知識がないので何でも知りたい。(薬の副作用のこと、最新の治療について、リハビリのこと、今の自分の状況について など)

A. ご意見ありがとうございます。リウマチは、長期にわたる治療が必要な病気です。したがって、医師とともに患者さまご自身も、リウマチに関する知識を高めることが重要となります。短い外来診療の中で、お伝えできることは限られていますが、できる限り皆さまのご質問にお答えできるよう努力いたします。また、現在のご自分の状況を詳しくお知りになりたい場合は、外来での検査だけでは不十分ですので、入院していただくことも可能です。その際には、薬剤師による個別指導、リハビリ訓練士による運動機能の評価および生活面でのアドバイス等も併せて行えます(リウマチ教育入院)。詳細につきましては、主治医もしくは外来看護師までお知らせください。



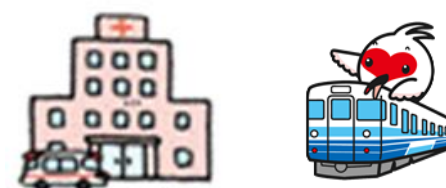
Q3. 診察のとき、先生に質問しようと思いますが、その時になると、忘れてしまう。聞いても良いのかどうしようか迷うことがあります。

A. これに関しては、『聞きたいことは、メモをしている』という別の方のご意見をいただきました。参考にしてみても、いかがでしょうか。



Q4. 治療が長期に渡るので、病院までの距離を考えると高齢になって通院できなくなったときに心配。

A. ご不便をおかけしております。冬期間など、通院困難な状況等は遠慮なく、お知らせください。治療の内容によっては、近くのかかりつけ医にご紹介も可能です。



Q5. 痛みを忘れられるようなことが知りたい。

A. リウマチの痛みには、いくつかあります。主に、①リウマチの炎症そのものによる痛み、②骨や関節の変化による痛み、③関節硬縮や筋力低下による痛み、④がんばり過ぎ・使いすぎ（オーバーワーク）による痛み などが考えられます。今、ご自分の痛みがどのようなことから起こっているのかを知り、それに合わせて対処することが大切です。痛み止めや湿布、患部の保温などがありますが、ご質問のように、痛み意識を集中しないことも非常に重要です。趣味やお友達との会話、お笑い番組を見る など、そのほか何でも結構です。何か別のことに集中することで、痛みを忘れたり、軽減することを生活の中に取り入れてみてください。

